こうすりゃ～ええ農（のう） vol.34

Agricultural news

このコーナーでは、
農業のちょっとしたこつを、
市の営農指導員から
お知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員　永奥（ながおく）　啓（はじめ）

販売しやすい小ギクの栽培

経営上の特性

切り花の中で、最も取り扱われる量が多いのが小ギクです。

特にお盆やお彼岸などの仏花としての小ギクは、なくてはならない花きです。それだけにこの時期には、直売所で売り切れ続出という、生産者にとってはうれしい話を耳にします。

大輪のキク（輪ギク）に比べると比較的栽培が容易な種類ということもあり、各地で栽培が盛んな種類の花きです。庄原地域では、気候的に、栽培しやすい秋のお彼岸向けが適していると思われます。

作型

挿し芽…4月中旬～下旬
定植…5月中旬～下旬
開花…9月中旬～

挿し芽

9月のお彼岸出荷の作型では、4月中旬～下旬に挿し芽を行います。

定植と管理

5月中～下旬に定植しますが、1カ月前には堆肥や肥料などを施用し、土にすき込んでおきます。畝は、梅雨時の雨対策として、できるだけ高く作ります。

植え付け本数は1アール当たり1500～1800本です。

なお、倒伏防止のためにフラワーネットを張り、生育に合わせて引き上げていきます。

定植後2週間くらいで、摘芯（ピンチ）を行い、摘芯した日の20～30日後に4本程度に枝の整理をします。

肥料

肥料は1アール当たり成分量でチッソ、リン酸、カリともに約2キロ程度を施用します。基本的に、マルチ栽培としますから、ゆっくりと効く種類の肥料を施用するようにします。

病害虫

病気では白さび病や褐斑病に注意が必要で、定期的に予防的防除を行います。

害虫では、アブラムシ、ダニ、スリップス、ヨトウガなど、発生を見たら早めに防除します。

問い合わせ
農業振興課農業振興係
☎0824-73-1132

比婆いざなみ街道物語　第10話

街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

今回は、比婆山伝説ガイドとして活動をしている「ツイハラの会」と比婆山周辺の見どころスポットをご紹介します！

「ツイハラの会」とは？

比婆山伝説ガイド「ツイハラの会」は、平成25年に西城町で結成され、熊野神社から御陵（1264メートル）までのガイドや手作りの紙芝居「比婆山物語」の上演会を行い、比婆山周辺の魅力発信に努めています。

「ツイハラ」とは〝露払い〟の意味で、西城町の一部地域では、祭礼で一番先を歩く天狗（案内役）をこのように呼んだそうです。ガイドとして、比婆山や熊野神社を訪れる人々を大切に案内するという想いを込め、「ツイハラの会」と命名されました。

「ツイハラの会」会員はガイドのほかに、登山道の調査や天然記念物の学術調査、紙芝居の上演、また書籍『日本誕生の女神』の執筆や編集など、「比婆山学」の担い手として活動しています。

比婆山周辺のおすすめスポット

比婆山周辺には、イザナミが眠るとされる「御陵石」が鎮座する御陵や、御陵の南正面の遥拝所として信仰を集める「熊野神社」、イザナキが亡き妻イザナミを追慕したとされる吾妻山、また好天時には遠く大山も眺望できる竜王山・池ノ段、神格化した巨岩「神籠石（こうごいし）」が鎮座する井西山・道後山など比婆山伝説にまつわるパワースポットが多数あります。

「ツイハラの会」は、これらのスポットの道案内と比婆山信仰にまつわる伝説、また周辺に咲く草花や豊かな自然に関する話などを聞かせてくれるガイドとして活躍しています。

伝説地を巡ろう！

登山に不慣れな方は山中にあるスポット巡りに不安もあるかもしれませんが、ガイド付きのツアーに参加すれば安心です！　知られざる神話や伝説地を巡る山旅を満喫してみてはいかがでしょうか。（冬期の登山については会へ確認が必要となります）

問い合わせ
いちばんづくり課いちばんづくり係
☎0824-73-1278